

ウィザス

「ウィザス」はウィズアス = with us "共に生きる—男女共生社会" の理念を表しています。

特集 行動力で切り拓かれた女性たちの未来

寄稿

変化する女性運動

立命館大学産業社会学部 准教授

やなぎわら めぐみ

柳原 恵さん

草の根の女性運動において、いかに自分たちの声を社会へ届けるか、またどのように同じ問題意識を持つ仲間と出会いつなげるかは重要な問題となってきました。かつては市井の女性が主張するための手段は限られており、男性が中心のマスメディアにおいては、女性たちが抱える問題はあかぬけ取り上げられませんでした。既存のメディアがダメなら自分たちのメディアを創る——60年代末から70年代にかけて隆盛した、日本における第2波フェミニズムとされるウーマン・リブにおいては、手作りの雑誌である「ミニコミ」が、問題意識を共有する女性同士（時に男性も）を時間、空間を超えてつなげる手段になりました（ミニコミの一部は『資料日本ウーマン・リブ史』全3巻に収録されており、WAN ミニコミ図書館 (<https://wan.or.jp/dwan>) でも閲覧可能です）。

そして今日、インターネットの普及により、SNSが女性たちをつなげる大きな力になっています。2017年、アメリカで始まった性暴力の被害経験をSNS上で告白する#MeToo運動がその端緒となりました。沈黙していた女性たちが一斉に声を上げ始めたことは、性被害を取り巻く社会の空気を変えました。日本においては2019年、性暴力事件に対し無罪判決が相次いだことをきっかけとして、被害者に寄り添いながら性暴力へ抗議するフラワーデモが始まりました。日本における#MeToo運動のひとつと言えるでしょう。今年1月には、デモのきっかけとなったある性暴力事件の裁判において、フラワーデモへの言及がありました。ひとりひとりが振り絞るようにして挙げた小さな声がうねりとなり、社会を変えた瞬間といえるでしょう。コロナ禍により、実際に集い、つながることが難しくなった中でも、オンラインでフラワーデモが続けられています。また、女性が職場で着用を強制されるヒール靴がもたらす健康被害を訴えた#KuToo運動も、SNS上で始められた運動です。大手航空会社らがヒール靴の着用ルールを緩和するなどの成果につながりました。

女性運動に限らず、社会運動への参加に大きな抵抗がある日本社

会においては、匿名性を保ったまま発信できるSNS（は運動のツールとして大きなメリットがあります。ジェンダー視点で見ると変革が遅々として進まない日本社会ですが、オンライン上の運動は、オフラインの社会にも大きな変革をもたらしつつあります。

一方で、性暴力をはじめとするジェンダー問題改善のために声を上げる女性に対するオンライン・ハラスメントも社会問題と言えるほど深刻になっています。社会運動の新しい手段であり、同時に運動実践の場にもなったインターネットですが、女性やマイノリティの人々にとっては安全な場所ではあないこともまた事実です。SNSの拡散性の高さにより、問題意識や抑圧経験など議論の前提条件を共有しない（しようとしな）い人々へも声が届いてしまい、ハラスメントの引き金になるのです。

このような社会的状況の中で、拡散性の低いオフラインのメリットもまた見直されるべきかもしれません。また、誰もが差別やハラスメントを受ける危険を感じずに居られるような「より安全な空間」を作る努力をすることも必要です（詳しくは、野田香緒里『生きるためのフェミニズム パンとバラと反資本主義』2021）。そのために私たちは何ができるのでしょうか？例えば、自分の持つ社会的立場（性別等）を「活用」という方法があります。もしあなたが男性なら、セクハラになりうる同性の言動に対して（女性よりも）注意しやすいでしょう。声を上げる人々へ賛同の気持ちを示し、孤立させないことも大切な行動です。社会は私たち一人ひとりが作っています。であるからこそ、一人ひとりの小さなアクションが社会を変える一歩になるのです。

Profile

立命館大学産業社会学部准教授。お茶の水女子大学基幹研究院研究員、日本学術振興会特別研究員PDなどを経て現職。専門はジェンダー研究、女性史・ジェンダー史。著書に『〈化外〉のフェミニズム—岩手・麗ら舎読書会の〈おなごたち〉』（ドメス出版）などがある。



特集 行動力で切り拓かれた女性たちの未来

日本では1946年の衆議院議員総選挙で初めて女性が参政権を獲得し、投票が実現しました。明治時代の終わりから大正時代にかけて、女性の参政権を求める行動を起こした先人たちの努力の結果です。今回は、日本や海外において女性運動がどのように発展したのか調べてみました。



海外の女性運動

海外では歴史的な女性運動がいくつもあります。有名な女性運動のひとつに、映画化もされたイギリスの「サフラジェット」が挙げられます。

1903年にマンチェスターで設立された女性社会政治同盟の女性活動家たちは「サフラジェット」と呼ばれ、女性の参政権を求めて演説・集会・出版・署名など様々な活動を行いました。「言葉ではなく行動を」がモットーだった彼女たちの活動は、過激な手段に訴えるものもあったにも関わらず、具体的な成果が得られませんでした。また彼女らによる政治家への陳情に対して、多くの国会議員が女性参政権を支持する姿勢を示していたものの、選挙法の改正に繋がることはありませんでした。

しかし、サフラジェットらの活動は、過激な行動への批判もありながら、イギリスで1918年に女性参政権が認められることに大きく貢献したといえるでしょう。

近年、アジアでは韓国の「#MeToo」運動が目にとまります。2018年に現役の女性検事がテレビ番組に出演して性被害を訴えた時、すぐに国内で「#MeToo」運動

が広がりを見せた背景には、根強い女性への差別的価値観に対する女性たちの不満が長年鬱積していたことがあると考えられます。

ネット上で女性を侮辱する書き込みが蔓延し、性暴力犯罪の発生件数も増加していた2016年、江南駅付近の男女共用トイレで、男性が面識のない女性を無作為に狙って殺害する事件が起きました。「女性であるという理由だけで殺されるかもしれない」という危機感が韓国の女性たちの間に広がり、女性嫌悪への反対運動や性差別の解消に向けた議論を求める声などが高まるなど、女性たちの強い連帯行動に繋がっていきました。

これら一連の動きがきっかけとなり、韓国では2019年12月に、女性嫌悪罪など性別に基づく女性に対する暴力の防止を目的とした法律、「女性暴力防止基本法」が施行されました。



日本の女性運動

明治以降、日本では福沢諭吉が唱えた男女同権論などがありましたが、日本初の婦人団体が生まれたのは、1919年です。平塚らいてう、市川房枝たちが、女性の政治的・社会的自由を確立させるため、「新婦人協会」を設立し、機関誌「女性同盟」を発行しました。女性参政権を獲得するまでにはいたりませんでした。女性の政治的・社会的権利について、大きく前進させました。

1960年代には、アメリカで「ウーマン・リブ（ウィメンズ・リベレーション）」が起き、ヨーロッパや日本にも影響を与えました。日本ではベトナム反戦、安保反対などの市民運動や学生運動が盛り上がる中で、女性解放をめざす運動が生まれました。女性の駆け込み寺にもなった「ぐるーぷ闘うおんな」など多くのグループが活動する中、「中ピ連」の略称で知られる「中絶禁止法に反対しピル解禁を要求する女性解放連合」も生まれ、♀印のついたピンク色のヘルメットと過激ともとれる活動でマスメディアを賑わせました。

1980年代はそれまでの運動の時代に替わって、女性学

研究者によるフェミニズムが盛んになり、1985年には雇用における機会などを性別によって差別されることなく確保することを目的とした「男女雇用機会均等法」が成立しました。

最近では、世界規模での「#MeToo」運動や日本独自の「#KuToo」、性暴力に抗議するフラワーデモなどが注目されています。

かつての女性運動は、一部の団体による出版や、デモ、ピル配りなど過激なイメージがあるかもしれませんが、現在はインターネットやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及により、誰もが情報発信できるようになり、これまでは取り上げられることがなかった声なき声も、社会に対して影響力を与えることができるようになりました。一人ひとりが疑問や課題を諦めずに発信することで、より一層等身大の女性の思いが社会に届くようになるとよいですね。



様々な女性運動

#MeToo 運動

#MeTooとは、「私も」を意味する英語にハッシュタグを付したSNS用語で、セクシュアル・ハラスメントや性被害を告白・共有することで、社会を変えていこうとする運動を表しています。

2017年、米国ハリウッド映画プロデューサーによるセクハラ疑惑が報じられたことから、数々の著名人が被害を受けた女性たちに声を上げるよう呼びかけました。日本では、ジャーナリストの伊藤詩織さんが性暴力被害を訴えたことがきっかけとなり、大きく注目されました。

Black Box



伊藤詩織（著）
文藝春秋

#KuToo

#KuTooとは、MeTooをもじって「靴」と「苦痛」をかけた造語にハッシュタグを付したSNS用語で、女性が職場でハイヒールやパンプスの着用を義務づけられていることに対して抗議した運動を表しています。2019年、元アイドルの石川優実さんのツイートきっかけに議論が広がり、男性にはない服装規定を女性に課すことに問題提起しています。

#KuToo 靴から考える 本気のフェミニズム

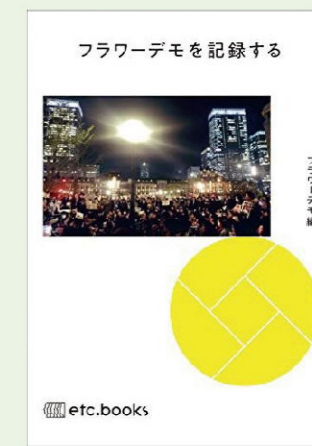


石川優実（著）
現代書館

フラワーデモ

2019年、性被害を訴えた裁判に相次いで4件の無罪判決が出たことに危機感を抱いた作家の北原みのりさんが、SNSなどインターネットを通じて、被害者に寄り添う気持ちの象徴として花を持って集まろうと呼びかけ、4月11日に約400人が東京駅前に集まりました。これが第1回となり、各地で毎月11日に開催されるフラワーデモになりました。女性への性暴力を契機に始まった運動ですが、男性の被害者が参加する姿もみられます。

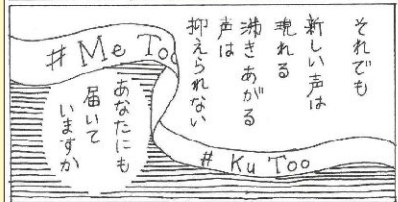
フラワーデモを 記録する



フラワーデモ（編集）
エトセトラブックス

あなたにも届いていますか。

作 A・S



お知らせ 男女共同参画センター講座・事業

男女共同参画センターでは様々な講座や事業を実施しています！
詳細は芦屋市広報もしくはホームページをご確認ください★

✿ 国際女性デー記念事業 映画上映会

3月12日(土) 午前10時～・午後1時30分～(2回上映)
上映作品「スキャンダル」※109分・字幕(要予約)

✿ ウィザスあしや BOOK WEEK2022

3月12日(土)～18日(金) 3月13日(日)は休館日

センター1階の「情報コーナー」にて、様々なテーマ別特集展示を行います！期間中は絵本講座など親子で楽しめるイベントも実施予定です！



芦屋市男女共同参画センター
講座ページに入ります

✿ ウィザスあしやフェスタ2022

5月28日(土)、30日(月)～6月3日(金)

男女共同参画センター登録グループによる様々なワークショップを開催します。28日(土)はチャリティーバザー等のイベントも実施予定です！

編集後記

何度も津波のように押し寄せる新型コロナ。子どもにも感染が増え、学級閉鎖が頻繁になり、楽しい給食も黙食が当たり前。スマホでのつきあいではなく、対面で目を合わせておしゃべりしたり、ご飯を食べながらコミュニケーションする機会が、貴重になってしまいました。早く元の世界に戻ってほしい。1年1年が大切な子どもたちのために切に願います。(浜橋)

秘密厳守

女性相談

面接相談

無料相談・予約専用電話 0797-38-2022【要予約】

心の悩み相談
(1人50分)

3月
第1・第2・第4金曜日
いずれも午前11時～午後4時
4月以降
第1・第3火曜日
第2・第4金曜日
いずれも午後1時～午後4時

家事相談
(1人50分)

原則、毎月
第3金曜日
いずれも
午前11時～午後4時

法律相談
(1人30分)

偶数月：第1水曜日
奇数月：第2土曜日
いずれも
午後2時～4時

女性活躍相談
(1人50分)

3月8日・15日・22日・29日
4月12日・19日・26日
5月10日・17日・24日・31日
午後1時～4時(別日も可)
※4月以降変更の可能性あり

★ 場合によって日時の変更があります。ホームページや電話でご確認ください。
★ 一時保育あり・無料(事前予約必要) ★ 相談日は現時点での予定です(随時変更あり)

ウィザス

No. 107

令和4年3月発行(春号)

企画・執筆

市民編集ボランティア

編集・発行

芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや

芦屋市男女共同参画センターHP



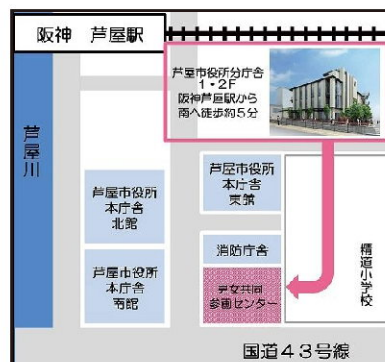
〒659-0064 芦屋市精道町8番20号(市役所分庁舎1・2階)

TEL: 0797-38-2023 / FAX: 0797-38-2175

Eメール: josei-ce@city.ashiya.lg.jp

■開館: 月曜日～土曜日・午前9時～午後5時30分

■休館: 日曜日・祝日・年末年始(12月28日～1月4日)



配偶者やパートナーからの暴力に悩んでいるかたへ ひとりで悩まず、お電話ください。【秘密厳守】

芦屋市DV相談室 TEL: 0797-38-9100 月～金(祝日、年末年始を除く) 9:00～17:30(12:00～12:45を除く)